

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成22年10月29日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502173		
法人名	社会福祉法人 春海会		
事業所名	グループホーム エクセル鞆の浦		
所在地	〒720-0203 福山市田尻町4115番地		
自己評価作成日	平成22年10月19日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3471502173&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成22年11月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

毎日の散歩や外出をすることで気分転換を図り、毎月の行事や折り紙教室等を通じて五感を刺激することで認知症の進行の予防を行っています。また食事作りや干し柿作り、らっきょ漬け、梅ジュース作り、リハビリ体操等、日々の生活の中で残存能力や協働の喜びを通して、生きがい作りに力を入れています。ターミナルケアも受け入れ実践しています。職員も清潔な生活を送って頂くために管理目標を掲げ整理整頓、清潔保持を心がけ、誤薬予防、言葉使い等に注意しながら業務に就いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

・母体組織が、認証を取得している「ISO：9001」国際標準化機構が認める品質マネジメントと理念を具体化していくために、職員全体で話し合い、作りあげたホーム独自の品質目標のもとで、利用者の尊重と自立に向けた支援と、地域に目を向けたホームを目指している。
・管理者は、コミュニケーションを大切に、明るい職場で働きやすい環境づくりに取り組み、職員は和気あいあいとした雰囲気の中で生き生きとして働いている。
・母体組織や関連の事業所とともに、全ての家族等の意見・不満・苦情等を見逃さず、その発生要因を探り、課題を検討し、運営に反映させる取り組みと、職員へのきめ細かい研修の成果は、入居者及び家族の満足につながっている。

楽の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設の運営方針、経営理念を基盤として、グループホーム独自の品質目標を毎年度ははじめ作っている。	全職員は常日頃から、理念というものは、「自分と共に成長するものであり、育てていくものだ」と理解している。また、理念は全職員の拠り所として大切に、常に立ち戻る原点となっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	3月の杏祭では甘酒を作り、配っている。夏祭りではここを会場として地域との交流を行っている。また、春の菜の花、夏のひまわりの花の種蒔きを地域住民と行い、満開の時は市内外から大勢見物に来られる。	単発の行事や季節の催し等の関わりだけでなく、常日頃から地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っていく努力を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の町内会、老人会、ケアハウスの方を対象に3カ月に1度、認知症予防の話や運動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議での報告の内容等を、介護会や施設研修会で話し、より良いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議を通じて、地域の方へ情報提供したり、支援の方法や実践の報告をしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	包括支援事業所や民生委員より運営推進会議に参加して頂き、協力関係を築くように努めている。	運営推進会議等を通じて、事業所の実情やケアサービスの取組みを伝えながら、現場や入居者の課題解決に取り組んでいる。	

楽の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠は勿論のこと、車椅子上での拘束、ベッド上での拘束をしない事になっている。やむを得ない場合は家族に説明を行い同意書を得てから行っている。(ベッド柵を2本とする)</p>	<p>高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。職員の見守りの方法を徹底し、また、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチしながら、鍵をかけない自由な暮らしを支えている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>施設内研修や介護会等で学ぶ機会がある。意識を高めることで、虐待をしない、させないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>施設内研修や外部研修にて学んでいる。又必要な入居者には社協に相談に行き、家庭裁判所で手続きの支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に契約書と重要事項説明書を基に説明を行い、家族の疑問点にもお答えし理解と納得を得て入居して頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居時にも苦情や意見はどんどん言っ下さいと説明している。家族が職員に話やすい雰囲気を作っている。</p>	<p>入居者や家族等から出された率直な少数意見等全てを、前向きに活かす姿勢や体制を組織として徹底させ、サービスの質の確保・向上につなげている。このことは、多くの入居者や家族の安心と信頼につながっている。</p>	

楽の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	週1回のスタッフ会議や職員の親睦会を通して反映させている。また職員がいつでも意見を言える意見ボックスを設けている。	常日頃から、管理者は職員が何でも言え、働きやすい環境作りに取り組んでいる。また、入居者及び家族の要望等に沿って柔軟な支援を提供するために、現場の職員からの意見や情報をしっかりと取り入れ、一緒に話し合いながら調整を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人用のエクセルノートがあり、個人の目標や仕事上の目標を自由に書いて提出している。普段話せない事等をノートの中でやり取りして把握している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ISOによる職員の教育訓練を積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域での研修を通して、交流の機会を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	まず事前面接において、家族と本人の話を良く聞く。入居後は職員や入居者同士のコミュニケーションを図れるケアプランも作成している。		

楽の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	まず事前面接において家族と本人の話を良く聞く。入居の契約時も家族の意向を必ず確認している。入居後も何かあれば連絡をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	しっかり家族の意向、本人の意向を聞いてプランに取り入れている。リハビリ等の支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活を一緒に過ごす中で、話をして色々教えて頂いたり、干し柿やらっきよの作り方を教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	何かあれば家族に連絡して、情報の共有をすることで築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	デイサービス利用者の面会を積極的に受け入れたり、こちらから会いにお連れしたりしている。	馴染みの方との面会や、例えば、知人からの電話や手紙等で関係が保てるように、積極的に支援を行っている。	

楽の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	机の位置を工夫したり、リハレクで入居者同士が関われるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要があれば相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族の意向を第一に考えて支援している。困難な場合でも、何が一番良い状態かを職員、家族と相談している。	本人からの訴えや、言動、行動によって、意思や、本意を掘り下げ意味づけし、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	会話の中から或いは家族に聞いたり、日々の生活の中から知り得た生活歴を職員間で共有しサービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録に日々の出来事等を記入し、把握するように努めている。		

楽の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居時本人及び家族としっかり話し合いサービス計画書を作成する。1~2ヶ月後看護師、担当介護員、ユニットリーダー、ケアマネでカンファレンスを持ち、再度サービス計画書を作成している。</p>	<p>介護計画は、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、本人や家族の要望や変化に応じて臨機応変に、見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランチェック表や、ケース記録等でモニタリングを行い、ケアプランに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の散歩等も他部署の廊下を使用しているし、本人様の希望があれば、デイサービスのカラオケで一緒に使ったりと柔軟なサービスに取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>出来る範囲内での支援はしているし、行っていきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>個々の症状により、かかりつけ医を決めている。また必要に応じて専門の病院を紹介して頂き、受診をおこなっている。</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医への受診を尊重し、他の疾病や緊急の場合等は家族と連携しながら、協力医療機関にて適切な受診ができるように支援している。受診結果は、連絡ノート等に記載し、職員間で共有している。</p>	

楽の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎朝夕、入居者の状態を申し送り、必要に応じて指示をもらい、連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師及び看護師と連携をとって関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族、医師、看護師とカンファレンスを持ち、同意を得たうえで介護計画書を作成し、職員の情報共有を行い支援に取り組んでいる。	本人や家族の意向や、本人にとってどうあったら良いのか、事業所が対応しうる最大のケアを踏まえて、方針をチームで話し合い、家族や医療関係者等と連携を図りながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	介護会や施設内研修で何度も学習している。また実際に遭遇した事例は職員間でヒールドバックしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2度消防訓練を行って、火災や災害時の緊急時に動けるように訓練をしている。	避難経路や避難場所が指定され、年2回の内、1回は消防署の指導を得て、通報・消化・避難・誘導訓練を行っている。	

楽の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄介助時の声かけ対応は勿論のこと、入浴時も一人一人の入浴とし、言葉掛けにも気をつけている。	入居者への声掛けはさん付けであり、トイレへの誘導も言葉を選び、周囲に気付かれないように声掛けをしている。また、入居者の人格を損ねるような職員の言動は、管理者が注意している。プライバシーに関するマニュアルを作成し、活用がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ドライブでは何処に行きたいかを聞いたり、食事作りの時は何を食べたいかを雑談の中で聞く。また日常生活の中でもまず、どうしましょうかと本人様の意向を優先するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事にしても朝起きて来られない方は遅食にしたりしているが、なんでも本人優先にすると清潔保持が出来ない場合もあるので、優先順位に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔感のある服を着て頂くように心掛けている。特にボタン、破れ、食べこぼしには注意をしている。また散髪も定期的に行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の出来る能力と気持を考えて、お茶碗を洗って頂いたり、テーブルを拭いて頂いたり、お盆を並べて頂いたり、食べたお皿を流しまで持参して頂いたりしている。	入居者の好みを取り入れた献立表を作成し、料理の一部をお手伝いして頂いたり、テーブル拭きや、配膳、下膳等を職員とともに行っている。また、入居者の方々が得意とされている料理を、職員が手伝いながら作り、同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。	

楽の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	人によっては水分量を記入して、把握している。栄養バランスは、管理栄養士の下で献立されている。特に水分補給には、注意をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、全員の口腔ケアをしている。毎日チェックをおこなっている。また、舌コケにも注意をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	施設全体でオムツ外しに取り組んでいるし、毎月勉強会で取り組みの発表を行っている。自立は難しいが、日中のみ綿パンツを使用してトイレ誘導を行っている方もいる。	失禁時の恥ずかしさ、不快感、ダメージ等を軽減し、生きる意欲や自信につながるように、排泄パターンに応じた個別の支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給と、散歩をとりいれ便秘の予防を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりのタイミングで、入浴介助を行うことは非常に難しい。どうしても、職員の都合に合わせてしまっている。	入居者一人ひとりの習慣や本人の意向に沿って、入居者を脅かさない入浴支援を行っている。	

楽の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	前日の夜不眠だったら昼寝をして頂くとか、場合によっては早く休んで頂くとかはしている。また体調によっては頭部を挙上したり、足部を挙上して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師や医師に確認して副作用や症状に注意し、職員間でも情報を共有して、事故に至らない様に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	買い物に行ったり、洗濯物をたたんで頂いたり、食器を洗って頂いたり、干し柿作り、らっきょ漬、梅ジュース等を作って頂く事で、役割や楽しみを持って頂ける支援を行っている。また、散歩やドライブ、バイキング等を行うことで気分転換等の支援を行っている。ケアプランにも、取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ドライブで遠くに出掛けたり、散歩で庭を歩いたり、野球観戦やお芝居を見に行っている。	日時的には、同じ敷地内にある関連の事業所に出掛けて、顔なじみの利用者との交流を行ったり、入居者一人ひとりの状態や、希望等、その時々状況に応じて、ドライブに出掛ける等、外出が楽しめる支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に現金は持って頂かないようにしている。無くなった時に入居者に迷惑がかかるから。しかし、お金はいつでも使えるように支援している。		

楽の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いつでも家族から電話があれば取り次いでいるし、掛けたいことがあれば電話が出来る支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	台所は常に清潔にしている。浴室も毎回掃除をしている。特にトイレは気持ち良く使用して頂く為に、朝、夕の掃除をおこなっている。また随時清潔に気をつけている。	職員の感覚や好み、価値観で決めてしまわずに、入居者や家族等からの意見や情報を活かしながら、入居者一人ひとりが居心地のよい空間づくりの工夫と配慮に努めている。ホーム全体は、営繕関係が行き届いており、明るく、居心地のよさが伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳があるのでそこで、ひとりで横になったり、ソファを置いてくつろいで頂いている。また華道教室に行っている方のお生花を飾っている。毎月の折り紙教室での作品も飾っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時馴染みの家具や椅子、テーブルを持参して下さいと伝えるが、比較的持って来られない。なかにテレビや亡くなったご主人の写真を飾ったり、鏡台を持参されている方もいる。	本人や家族と相談して、馴染みの物を活かして、落ち着いてその人らしく暮らせる部屋作りに取り組んでいる。各居室は、明るく、整理整頓が行き届いており、居心地のよさが伺えた。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	流し台が食堂のそばにあるのでお茶碗を洗ったり、お盆を拭いたり出来る環境にある。またトイレの場所も分かるように、「便所」と書いて扉に張っている。		

和の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設の運営方針、経営理念を基盤として、グループホーム独自の品質目標を毎年度はじめ作っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	3月の杏祭では甘酒を作り、配っている。夏祭りではここを会場として地域との交流を行っている。また、春の菜の花、夏のひまわりの花の種蒔きを地域住民と行い、満開の時は市内外から大勢見物に来られる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の町内会、老人会、ケアハウスの方を対象に3カ月に1度、認知症予防の話や運動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進員会での話の内容等を、介護会や施設研修会で話し、より良いサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	包括支援事業所や民生委員より運営推進会議に参加して頂き、協力関係を築くように努めている。		

和の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠は勿論のこと、車椅子上での拘束、ベッド上での拘束をしない事になっている。やむを得ない場合は家族に説明を行い同意書を得てから行っている。（ベッド柵を2本とする）</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>施設内研修や介護会等で学ぶ機会がある。意識を高めることで、虐待をしない、させないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>施設内研修や外部研修にて学んでいる。又必要な入居者には社協に相談に行き、家庭裁判所で手続きの支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に契約書と重要事項説明書を基に説明を行い、家族の疑問点にもお答えし理解と納得を得て入居して頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居時にも苦情や意見はどんどん言っ下さいと説明している。家族が職員に話易い雰囲気を作っている。</p>		

和の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	週1回のスタッフ会議や職員の親睦会を通して反映させている。また職員がいつでも意見を言える意見ボックスを設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人用のエクセルノートがあり、個人の目標や仕事上の目標を自由に書いて提出している。普段話せない事等をノートの中でやり取りして把握している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ISOによる職員の教育訓練を積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域での研修を通して、交流の機会を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	まず事前面接において家族と本人の話を良く聞く。入居後は職員や入居者同士のコミュニケーションを図れるケアプランも作成している。		

和の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	まず事前面接において家族と本人の話を良く聞く。入居の契約時も家族の意向を必ず確認している。入居後も何かあれば連絡をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	しっかり家族の意向、本人の意向を聞いてプランに取り入れている。リハビリ等の支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活を一緒に過ごす中で、話をして色々教えて頂いたり、干し柿やらっきよの作り方を教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	何かあれば家族に連絡して、情報の共有をすることで築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	デイサービス利用者の面会を積極的に受け入れたり、こちらから会いにお連れしたりしている。		

和の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	机の位置を工夫したり、リハレクで入居者同士が関われるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要があれば相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族の意向を第一に考えて支援している。困難な場合でも、何が一番良い状態かを職員、家族と相談している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	会話の中から或いは家族に聞いたり、日々の生活の中から知り得た生活歴を職員間で共有しサービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録に日々の出来事等を記入し、把握するように努めている。		

和の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居時本人及び家族としっかり話し合いサービス計画書を作成する。1～2ヶ月後看護師、担当介護員、ユニットリーダー、ケアマネでカンファレンスを持ち、再度サービス計画書を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランチェック表や、ケース記録等でモニタリングを行いケアプランに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の散歩等も他部署の廊下を使用しているし、本人様の希望があれば、デイサービスのカラオケで一緒に使ったりと柔軟なサービスに取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>出来る範囲内での支援はしているし、行っていきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>個々の症状により、かかりつけ医を決めている。また必要に応じて専門の病院を紹介して頂き、受診をおこなっている。</p>		

和の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎朝夕、入居者の状態を申し送り、必要に応じて指示をもらい、連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師及び看護師と連携をとって関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族、医師、看護師とカンファレンスを持ち、同意を得たうえで介護計画書を作成し職員の情報共有を行い支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	介護会や施設内研修で何度も学習している。また実際に遭遇した事例は職員間でヒールドバックしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2度消防訓練を行って火災や災害時の緊急時に動けるように訓練をしている。		

和の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄介助時の声かけ対応は勿論のこと、入浴時も一人一人の入浴とし、言葉掛けにも気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ドライブでは何処に行きたいかを聞いたり、食事作りの時は何を食べたいかを雑談の中で聞く。また日常生活の中でもまず、どうしましょうかと本人様の意向を優先するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事にしても朝起きて来られない方は遅食にしたりしているが、なんでも本人優先にすると清潔保持が出来ない場合もあるので、優先順位に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔感のある服を着て頂くように心掛けている。特にボタン、破れ、食べこぼしには注意をしている。また散髪も定期的に行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の出来る能力と気持を考えて、お茶碗を洗って頂いたり、テーブルを拭いて頂いたり、お盆を並べて頂いたり、食べたお皿を流しまで持参して頂いたりしている。		

和の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>人によっては水分量を記入して把握している。栄養バランスは管理栄養士の下献立さるている。特に水分補給には注意をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後全員口腔ケアをしている。毎日チェックをおこなっている。また舌コケにも注意をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>施設全体でオムツ外しに取り組んでいるし，毎月勉強会で取り組みの発表を行っている。自立は難しいが，日中のみ綿パンツを使用してトイレ誘導を行っている方もいる。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分補給と，散歩をとりいれ便秘の予防を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりのタイミングで入浴介助を行うことは非常に難しい。どうしても職員の都合に合わせてしまっている。</p>		

和の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>前日の夜不眠だったら昼寝をして頂くとか、場合によっては早く休んで頂くとかはしている。また体調によっては頭部を挙上したり、足部を挙上して対応している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>看護師や医師に確認して副作用や症状に注意し、職員間でも情報を共有して事故に至らない様に気をつけている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>買い物に行ったり、洗濯物をたたんで頂いたり、食器を洗って頂いたり、干し柿作り、らっきょ漬、梅ジュース等を作って頂く事で役割や楽しみを持って頂ける支援を行っている。また散歩やドライブ、バイキング等を行うことで気分転換等の支援を行っている。ケアプランにも取り入れている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ドライブで遠くに出掛けたり、散歩で庭を歩いたり、野球観戦やお芝居を見に行っている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>基本的に現金は持って頂かないようにしている。無くなった時に入居者に迷惑がかかるから。しかし、お金はいつでも使えるように支援している。</p>		

和の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いつでも家族から電話があれば取り次いでいるし、掛けたいことがあれば電話が出来る支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	下駄箱を置いたり、四季の花や飾りをしている。また折り紙教室の作品も飾り居心地のよい空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂と少し離れた所にソファを置き、一人でも過ごせる居場所がある。ときには他のユニットに行き談話できるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使っていた椅子やテーブルで独自の居室を作って生活されている方もいる。また家族が家族の写真を飾られている方もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差の解消や手すりは設置している。夜間は居室にポータブルトイレを置き、トイレまで行かなくても安全な排泄が出来るようにしている。		

美の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設の運営方針、経営理念を基盤として、グループホーム独自の品質目標を毎年度はじめ作っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	3月の杏祭では甘酒を作り、配っている。夏祭りではここを会場として地域との交流を行っている。また、春の菜の花、夏のひまわりの花の種蒔きを地域住民と行い、満開の時は市内外から大勢見物に来られる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の町内会、老人会、ケアハウスの方を対象に3カ月に1度、認知症予防の話や運動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進員会での話の内容等を、介護会や施設研修会で話し、より良いサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	包括支援事業所や民生委員より運営推進会議に参加して頂き、協力関係を築くように努めている。		

美の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠は勿論のこと、車椅子上での拘束、ベッド上での拘束をしない事になっている。やむを得ない場合は家族に説明を行い同意書を得てから行っている。（ベッド柵を2本とする）</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>施設内研修や介護会等で学ぶ機会がある。意識を高めることで、虐待をしない、させないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>施設内研修や外部研修にて学んでいる。又必要な入居者には社協に相談に行き、家庭裁判所で手続きの支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に契約書と重要事項説明書を基に説明を行い、家族の疑問点にもお答えし理解と納得を得て入居して頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居時にも苦情や意見はどんどん言っ下さいと説明している。家族が職員に話易い雰囲気を作っている。</p>		

美の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	週1回のスタッフ会議や職員の親睦会を通して反映させている。また職員がいつでも意見を言える意見ボックスを設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人用のエクセルノートがあり、個人の目標や仕事上の目標を自由に書いて提出している。普段話せない事等をノートの中でやり取りして把握している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ISOによる職員の教育訓練を積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域での研修を通して、交流の機会を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	まず事前面接において家族と本人の話を良く聞く。入居後は職員や入居者同士のコミュニケーションを図れるケアプランも作成している。		

美の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	まず事前面接において家族と本人の話を良く聞く。入居の契約時も家族の意向を必ず確認している。入居後も何かあれば連絡をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	しっかり家族の意向、本人の意向を聞いてプランに取り入れている。リハビリ等の支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活を一緒に過ごす中で、話をして色々教えて頂いたり、干し柿やらっきよの作り方を教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	何かあれば家族に連絡して、情報の共有をすることで築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	デイサービス利用者の面会を積極的に受け入れたり、こちらから会いにお連れしたりしている。		

美の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	机の位置を工夫したり、リハレクで入居者同士が関われるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要があれば相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族の意向を第一に考えて支援している。困難な場合でも、何が一番良い状態かを職員、家族と相談している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	会話の中から或いは家族に聞いたり、日々の生活の中から知り得た生活歴を職員間で共有しサービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録に日々の出来事等を記入し、把握するように努めている。		

美の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居時本人及び家族としっかり話し合いサービス計画書を作成する。1～2ヶ月後看護師、担当介護員、ユニットリーダー、ケアマネでカンファレンスを持ち、再度サービス計画書を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランチェック表や、ケース記録等でモニタリングを行いケアプランに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の散歩等も他部署の廊下を使用しているし、本人様の希望があれば、デイサービスのカラオケで一緒に使ったりと柔軟なサービスに取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>出来る範囲内での支援はしているし、行っていきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>個々の症状により、かかりつけ医を決めている。また必要に応じて専門の病院を紹介して頂き、受診をおこなっている。</p>		

美の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎朝夕、入居者の状態を申し送り、必要に応じて指示をもらい、連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師及び看護師と連携をとって関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族、医師、看護師とカンファレンスを持ち、同意を得たうえで介護計画書を作成し職員の情報共有を行い支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	介護会や施設内研修で何度も学習している。また実際に遭遇した事例は職員間でヒールドバックしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2度消防訓練を行って火災や災害時の緊急時に動けるように訓練をしている。		

美の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄介助時の声かけ対応は勿論のこと、入浴時も一人一人の入浴とし、言葉掛けにも気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ドライブでは何処に行きたいかを聞いたり、食事作りの時は何を食べたいかを雑談の中で聞く。また日常生活の中でもまず、どうしましょうかと本人様の意向を優先するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事にしても朝起きて来られない方は遅食にしたりしているが、なんでも本人優先にすると清潔保持が出来ない場合もあるので、優先順位に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔感のある服を着て頂くように心掛けている。特にボタン、破れ、食べこぼしには注意をしている。また散髪も定期的に行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の出来る能力と気持を考えて、お茶碗を洗って頂いたり、テーブルを拭いて頂いたり、お盆を並べて頂いたり、食べたお皿を流しまで持参して頂いたりしている。		

美の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>人によっては水分量を記入して把握している。栄養バランスは管理栄養士の下献立さるている。特に水分補給には注意をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後全員口腔ケアをしている。毎日チェックをおこなっている。また舌コケにも注意をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>施設全体でオムツ外しに取り組んでいるし，毎月勉強会で取り組みの発表を行っている。自立は難しいが，日中のみ綿パンツを使用してトイレ誘導を行っている方もいる。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分補給と，散歩をとりいれ便秘の予防を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりのタイミングで入浴介助を行うことは非常に難しい。どうしても職員の都合に合わせてしまっている。</p>		

美の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	前日の夜不眠だったら昼寝をして頂くとか、場合によっては早く休んで頂くとかはしている。また体調によっては頭部を挙上したり、足部を挙上して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師や医師に確認して副作用や症状に注意し、職員間でも情報を共有して事故に至らない様に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	買い物に行ったり、洗濯物をたたんで頂いたり、食器を洗って頂いたり、干し柿作り、らっきょ漬、梅ジュース等を作って頂く事で役割や楽しみを持って頂ける支援を行っている。また散歩やドライブ、バイキング等を行うことで気分転換等の支援を行っている。ケアプランにも取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ドライブで遠くに出掛けたり、散歩で庭を歩いたり、野球観戦やお芝居を見に行っている。リハレク体操も積極的に行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に現金は持って頂かないようにしている。無くなった時に入居者に迷惑がかかるから。しかし、お金はいつでも使えるように支援している。		

美の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いつでも家族から電話があれば取り次いでいるし、掛けたいことがあれば電話が出来る支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	造花を飾ったり観葉植物を飾ったり、人形を飾ったりしている。またソファを置いてゆったりと座って過ごせるスペースを作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースの中にベッドを置いて横になって頂いたり、ソファを置いたり、会話出来る方でテーブルを作ったりと工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使っていた物を持ってきて頂き、家庭と同様のレイアウトにして生活して頂いている方もいる。亡きご主人の位牌を持参されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差を解消し車椅子でも自分で使えるようにしてある。また手すりを付けて転倒の予防や、一人で歩けるようにしてある。トイレも「便所」と書いて場所が分かる工夫をしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム エクセル輛の浦

作成日 平成 22年 12月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	38	1人1人のペースを大切に出来ていないし、希望にそった支援が十分に出来ていない。	1人1人に寄り添った生活の支援	<ul style="list-style-type: none">・生れ育った場所に行く・お墓参りに行く・まる1日1人の為に動く	1年
2	18	どうしても職員としての立場で関係を築いている部分があるので、もっと共存し合える関係を築きたい	職員と入居者の共存	<ul style="list-style-type: none">・入居者の得意とするものを引き出し、教えて頂く・昔話しをしっかりと聞く・家族と一緒に過す時間を持つ	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。